

水害レポート 2011

Report of Water – Related Disaster in 2011

編集：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課・治水課
2012年5月

記載内容は作成時点のものであり、その後の調査等により変動する場合があります

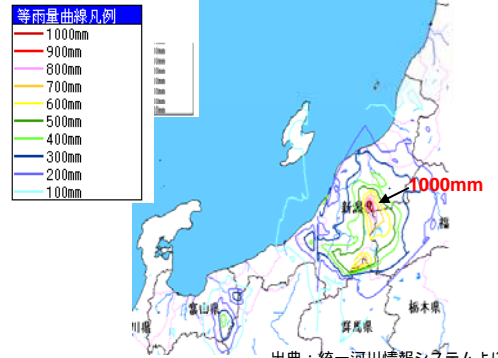
平成23年の洪水

平成23年の主な風水害の概要

【新潟・福島豪雨】

7月27日から30日にかけて、新潟県と福島県会津を中心に記録的な大雨となった。27日21時から30日13時までの降水量は、三条市大江の笠堀観測所(国)で1,006ミリとなり7月の平年の月降水量の2倍以上となった。

この大雨により、新潟県・福島県において死者4名、行方不明者2名となった。また、新潟県・福島県では各地で堤防の決壊や河川の氾濫による住家や農地の浸水が発生したほか、土砂災害による住家や道路の被害も多数発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。(被害状況は、平成23年12月16日18時現在の消防庁の情報による)

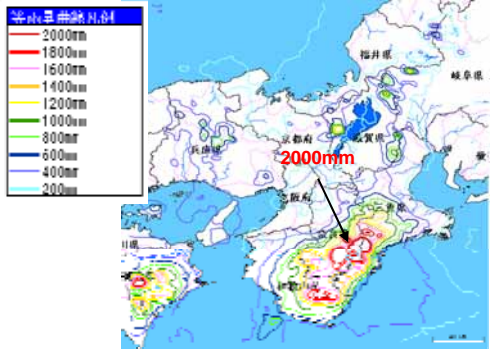


【台風12号】

8月25日に発生した台風は大型で、さらに台風の動きが遅かったため、8月30日から9月6日に西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。紀伊半島の一部では2,000mmを超える大雨となった。

土砂災害、浸水、河川のはん濫等により、和歌山県、奈良県、三重県などで死者81名、行方不明者16名となり、北海道から四国にかけての広い範囲で床上・床下浸水などの住家被害、田畑の冠水などの農林水産業への被害、鉄道の運休などの交通障害が発生した。

(被害状況は、平成24年3月19日18時現在の消防庁の情報による)

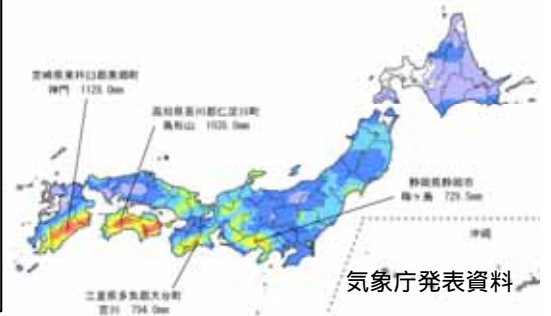


【台風15号】

9月13日に発生した台風が、南大東島の西海上にしばらく留まり、湿った空気が長時間にわたって本州に流れ込んだこと等から9月15日～9月22日にかけて西日本から北日本にかけての広い範囲で、暴風や記録的な大雨となった。

宮城県、静岡県、愛知県などで死者18名、行方不明者1名となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水被害等が発生した。また、農業・林業・水産業被害や停電被害、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。

(被害状況は、平成23年12月15日18時現在の消防庁の情報による)



平成23年の主な風水害による一般被害状況

災害要因	死者数 (人)	行方不明 者数 (人)	住家被害(棟)					非住家被害(棟)		
			全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共施設	その他	
7月新潟・福島豪雨	4	2	73	998	36	1221	7804	96	5824	平成23年 12月16日現在
台風12号	81	16	377	3155	458	5539	19500	59	565	平成24年 3月19日現在
台風15号	18	1	33	1577	2129	2145	5695	199	839	平成24年 12月15日現在

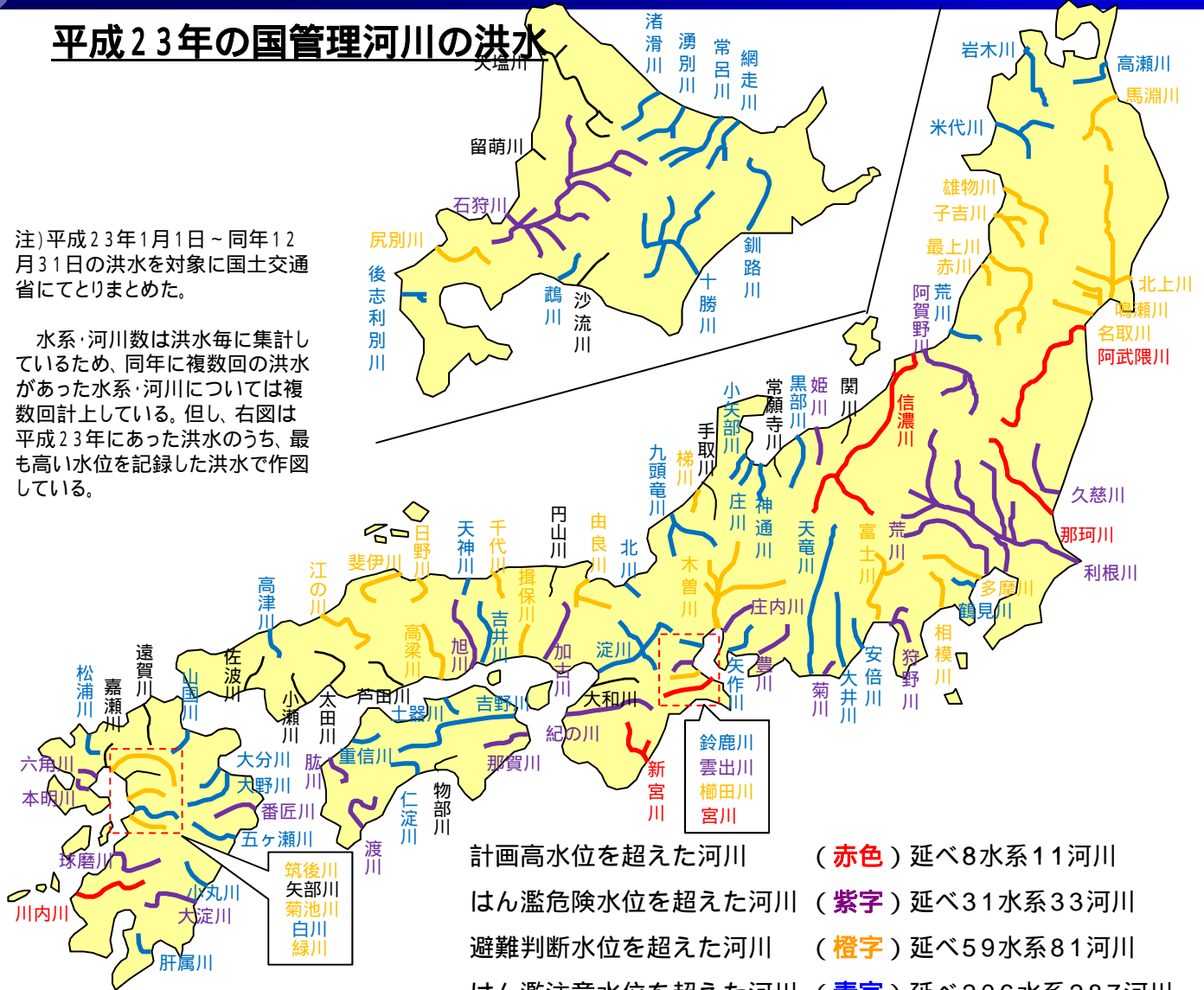
(消防庁調べ)

平成23年の洪水

平成23年の国管理河川の洪水

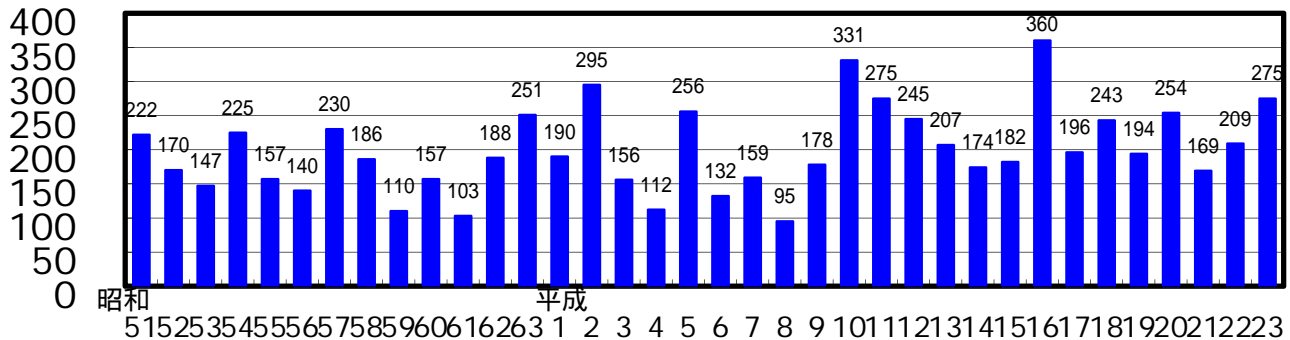
注)平成23年1月1日～同年12月31日の洪水を対象に国土交通省にてとりまとめた。

水系・河川数は洪水毎に集計しているため、同年に複数回の洪水があった水系・河川については複数回計上している。但し、右図は平成23年にあった洪水のうち、最も高い水位を記録した洪水で作図している。

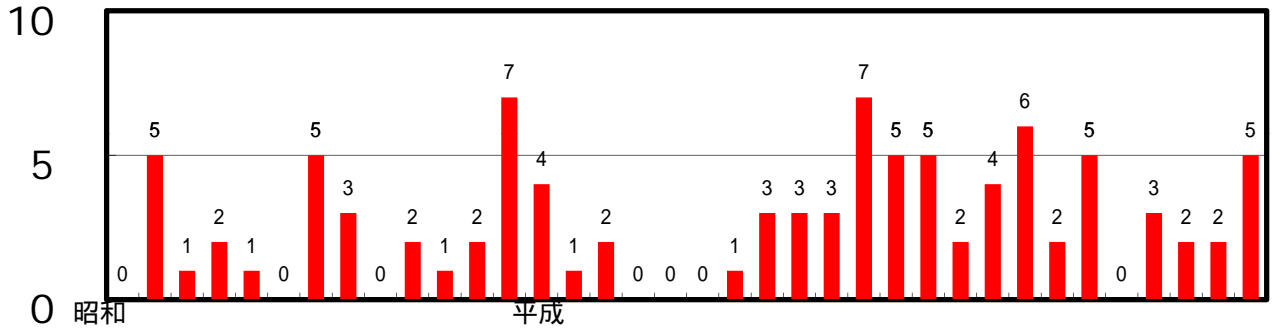


頻発する集中豪雨

(回/年) 1. 1時間降水量50mm以上の年間発生回数 (1000地点あたり)



(回/年) 2. 1時間降水量100mm以上の年間発生回数 (1000地点あたり)

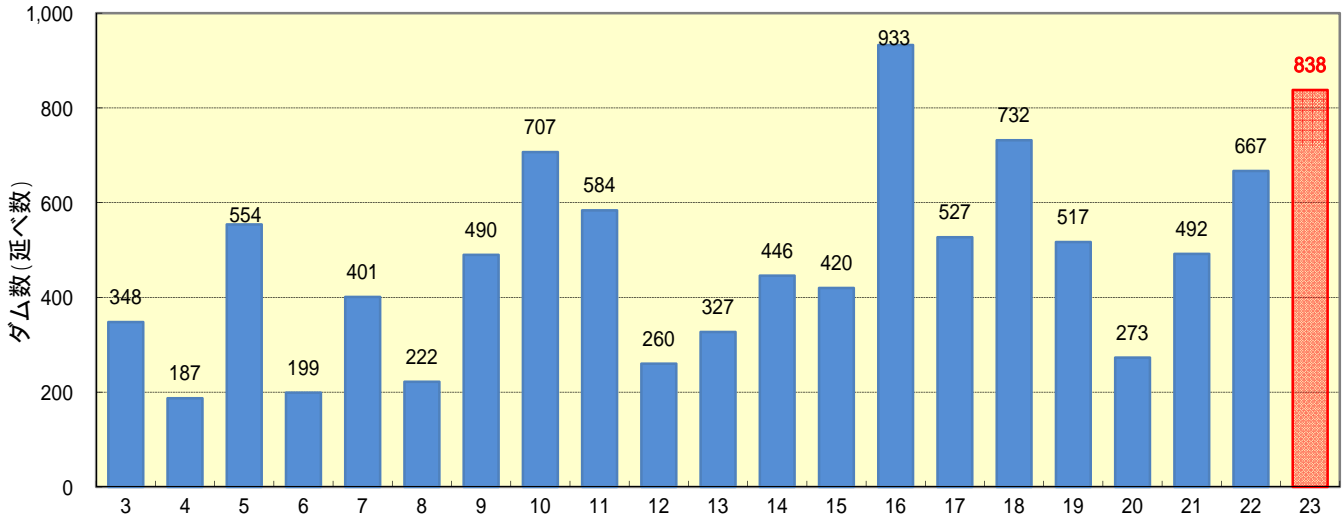


資料) 気象庁資料より作成

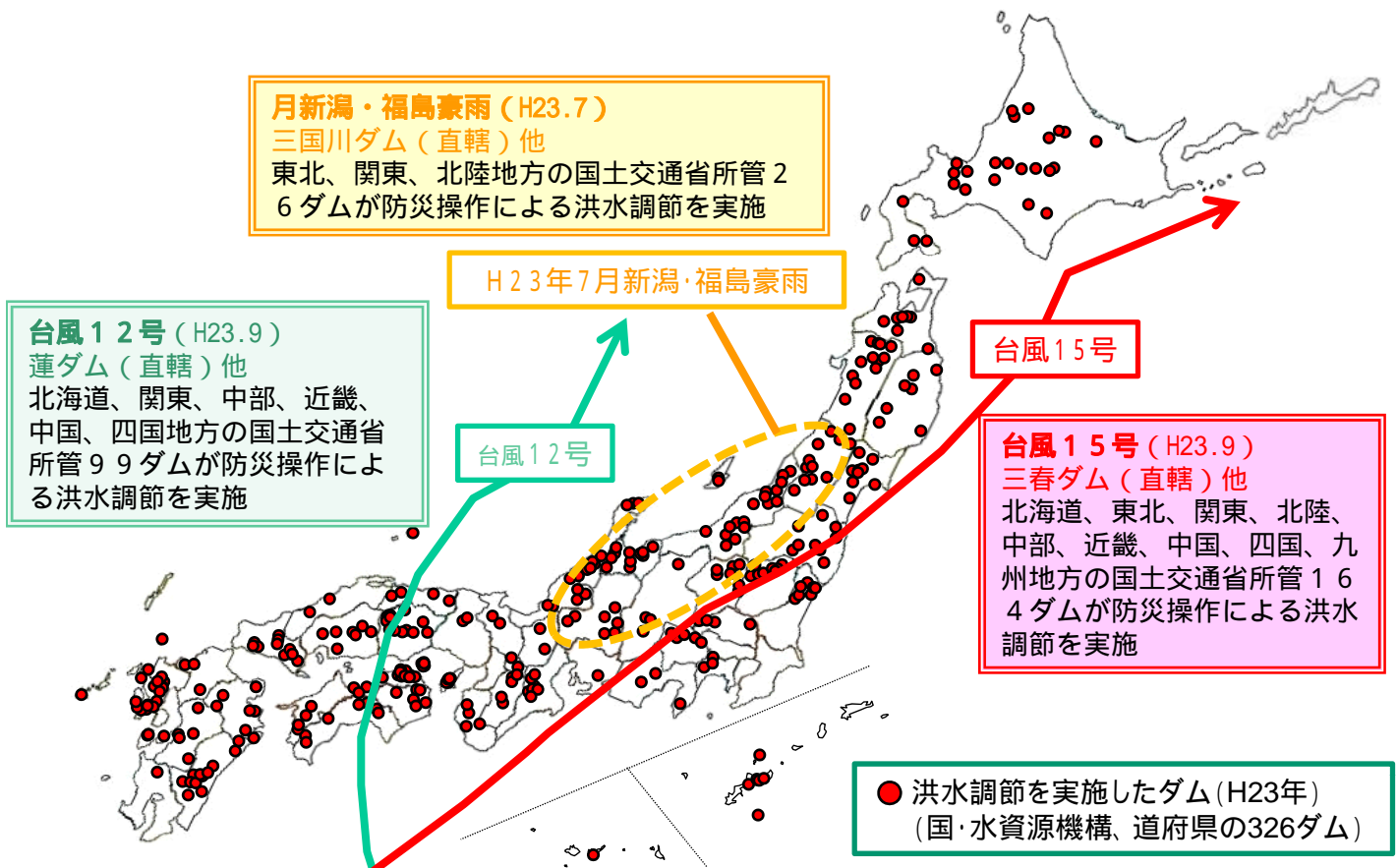
ダムによる洪水調節の概況

ダムによる洪水調節の実績（平成23年）

過去の洪水調節実施ダム数（国交省所管ダム）



平成23年（1月1日～12月31日）に洪水調節を行ったダムは、延べ838ダム



北海道 地方

平成23年9月2日～6日/台風12号、 台風13号

北海道各地で記録的大雨となり浸水被害が発生



辺別川の堤防侵食状況（旭川市西神楽地区）



音更川の堤防洗掘状況（河東郡音更町）



湧別川の内水被害状況（紋別郡湧別町）

風水害概要

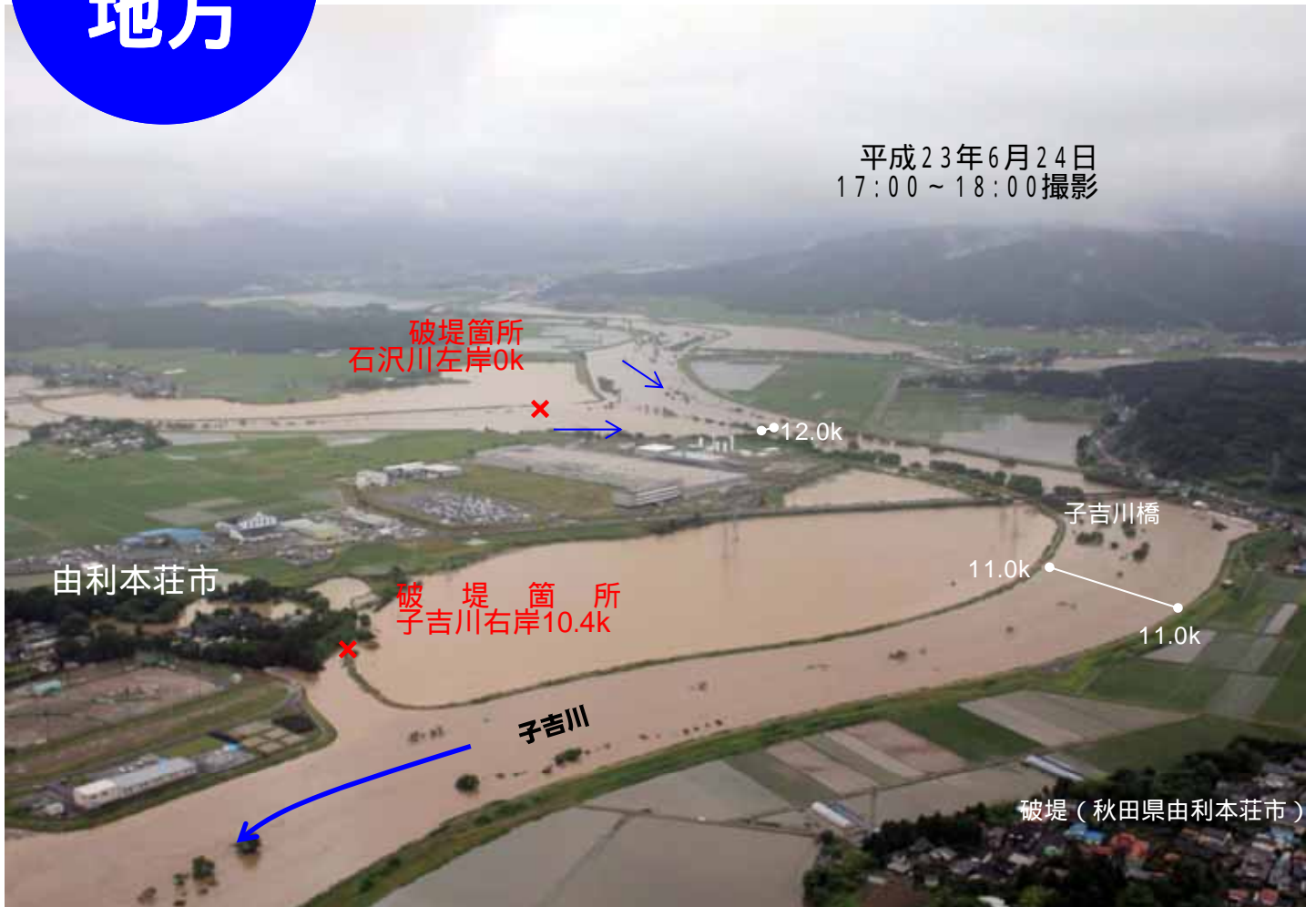
北海道付近に停滞した前線と台風12号、13号により、大雨となった。十勝地方の上士幌町ぬかびら源泉郷(アメダス地点)では、降り始めからの総降水量が434.5mmを記録するなど、道内各地で過去の時間別降水量(1時間降水量、3時間降水量、24時間降水量、72時間降水量)記録を更新する記録的な大雨となった。

この台風により国道で最大(9月2日15時50分時点)12路線18区間で通行止めが生じた(北海道開発局調べ)。そのほか北海道では、住家一部破損1棟、床下浸水32棟(北海道調べ)となった。

東北 地方

平成23年6月24日 / 梅雨前線

堤防決壊、越水による浸水被害が発生



平成23年6月24日
17:00 ~ 18:00撮影



6月25日
(破堤状況 12.4k)



6月24日11:00頃
(ピーク水位付近)

風水害概要

6月22日、梅雨前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が24日にかけて接近した。このため、前線の活動が活発となり22日～24日にかけて秋田県を中心に広い範囲で大雨となった。秋田県由利本荘市の大清水雨量観測所では、降り始めから24日9時までの雨量は461mmを記録した。

この雨により、国道108号では子吉川のはん濫により約17.5時間にわたって通行止めとなった。そのほか秋田県での一般被害は全壊1戸、一部破損1戸、床上浸水146戸、床下浸水379戸となった。(秋田県調べ平成23年9月6日時点)

東北 地方

平成23年7月27日～30日 / 新潟・福島豪雨

福島県内で270戸を超える家屋浸水被害が発生



風水害概要

7月27日から30日にかけて、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。特に、28日から30日にかけては、前線に向かって非常に湿った空気が流れ込み、新潟県と福島県会津を中心に記録的な大雨となった。福島県只見町の只見観測所では、7月30日11時までの降り始めからの累加雨量は711.5mmを記録した。

この豪雨により水力発電所19箇所(最大出力合計約120万kw)が停止した(東北電力調べ)。そのほか福島県の一般被害は、行方不明者1名、全壊33棟、半壊199棟、住家一部破損3棟、床上浸水80棟、床下浸水193棟となった。(消防庁調べ平成23年12月16日時点)

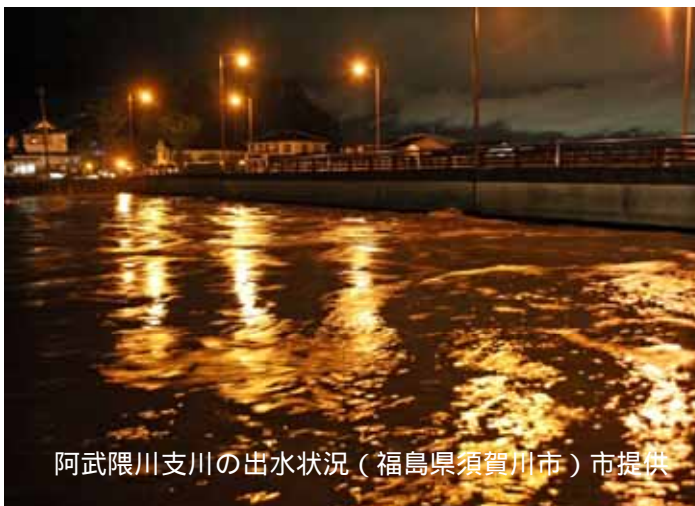
平成23年9月21日 / 台風15号

東北
地方

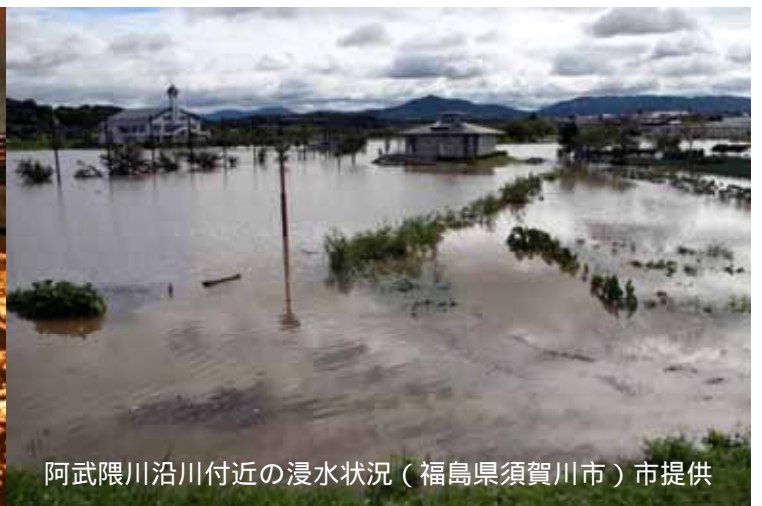
東北地方で4000戸を超える浸水被害が発生



阿武隈川沿川の浸水状況（福島県郡山市）



阿武隈川支川の出水状況（福島県須賀川市）市提供



阿武隈川沿川付近の浸水状況（福島県須賀川市）市提供

風水害概要

東北地方では、台風15号の北上に先立って本州付近に停滞する前線の活動が活発化したため、東北地方南部では20日から雨が降り続き、台風の接近した21日夜には非常に激しい雨となった。総雨量は東北地方で300mmを超える箇所があった。

この台風により、福島県で国道13号が約11時間、青森県では国道4号が8.5時間、国道104号が約23時間にわたって通行止めとなったほか、青い森鉄道が4日間にわたって運休した（東北地方整備局調べ）。そのほか東北地方の一般被害は、死者行方不明者3名、全壊26棟、半壊1562棟、住家一部破損186棟、床上浸水1156棟、床下浸水2933（消防庁調べ平成23年12月15日時点）となった。



馬淵川名川大橋周辺（青森県三戸郡南部町）



旧北上川左岸 不動沢地区（宮城県石巻市）



雄物川沿川の水防活動状況（秋田県大仙市）



旧北上川左岸 不動沢地区（宮城県石巻市）



雄物川沿川の救助作業状況（秋田県大仙市）



雄物川水系雄物川の状況（秋田県大仙市）

平成23年9月19日～22日 / 台風15号

関東
地方

約23,000世帯に避難勧告発令



風水害概要

台風が南大東島の西海上にしばらく留まり、湿った空気が長時間にわたって本州に流れ込んだことと、上陸後も強い勢力を保ちながら北東に進んだことにより、西日本から北日本にかけての広い範囲で、暴風や記録的な大雨となった。那珂川流域の累加雨量は213mmを記録した。

この台風によりJR常磐線が5時間にわたって運転休止(上野駅～いわき駅)した(国土交通省調べ平成23年12月21日10:00時点)。そのほか茨城県内の一般被害は、住家一部破損7戸、床上浸水7戸、床下浸水17戸、となった。(消防庁調べ平成23年12月15日時点)

北陸
地方

新潟県内で、8000戸を超える浸水被害が発生



小須戸橋付近 右岸 出水状況 (H23.7.30PM撮影)



小須戸橋右岸 水防状況 (新潟県新潟市)



五十嵐川右岸 江口地先 破堤状況 (新潟県三条市)

風水害概要

7月27日から30日にかけて、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。特に、28日から30日にかけては、前線に向かって非常に湿った空気が流れ込み、新潟県と福島県会津を中心に記録的な大雨となった。27日21時から30日13時までの降水量は、三条市大江の笠堀観測所(国)で1,006ミリとなり7月の平年の月降水量の2倍以上となった。この豪雨により、国道49号が約40時間にわたって通行止め、新潟・福島両県で、4,115名が一時孤立した(北陸地方整備局調べ)。そのほか新潟県では、死者行方不明者5名、全壊40棟、半壊799棟、住家一部破損32棟、床上浸水1133棟、床下浸水7567棟となった。(消防庁調べ平成23年12月16日時点)



白井橋付近 出水状況（新潟県新潟市）



白井橋 右岸より 出水状況（新潟県新潟市）



魚野川左岸 西川口 浸水状況（新潟県長岡市）



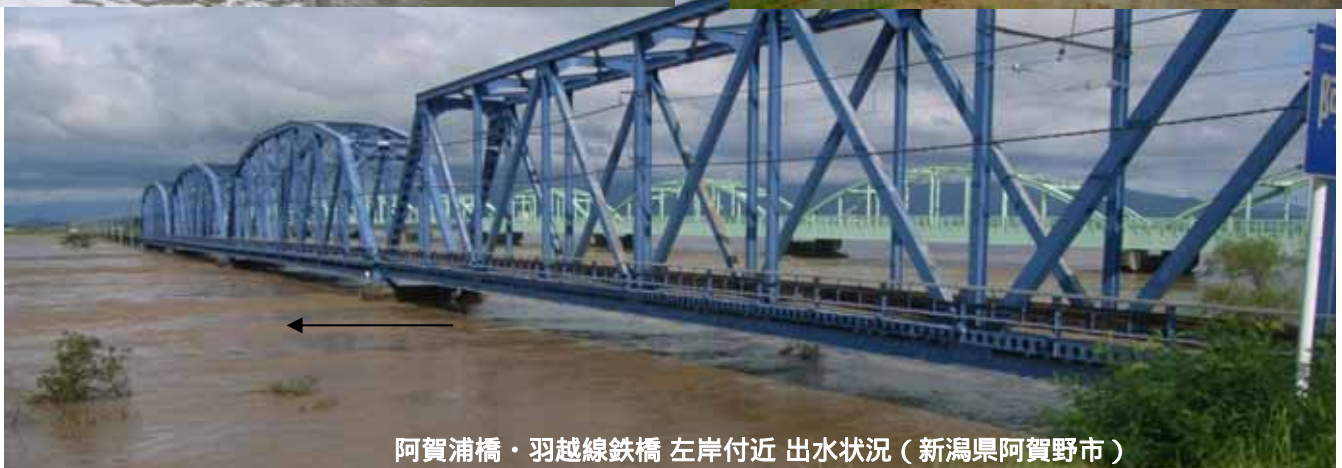
晒川 出水状況（新潟県十日町市）



新潟県五泉市太田地区 浸水状況



貝喰川合流点付近 ポンプ排水（H23.7.30AM撮影）



阿賀浦橋・羽越線鉄橋 左岸付近 出水状況（新潟県阿賀野市）

平成23年9月19日～21日 / 台風15号

中部
地方

愛知県内で1400戸を超える家屋浸水被害が発生



風水害概要

台風が、南大東島の西海上にしばらく留まり、湿った空気が長時間にわたって本州に流れ込んだことと、上陸後も強い勢力を保ちながら北東に進んだことにより、西日本から北日本にかけての広い範囲で、暴風や記録的な大雨となった。岐阜県多治見市の多治見雨量観測所では、9月19日19時の降り始めからの累加雨量は477mm(H12.9東海豪雨時は367mm)に達した。

この台風により東海道新幹線は約3時間にわたって全線運休となった(国土交通省調べ平成23年12月21日10:00時点)。そのほか中部地方で死者・行方不明者10名、負傷者166名、住家全壊3棟、半壊9棟、一部破損1524棟、床上浸水528棟、床下浸水950棟(消防庁調べ・平成23年12月15日時点)となった。

中部 地方

平成23年9月2日～5日 / 台風12号

三重県を中心に1500棟を超える浸水被害が発生



宮川右岸7.4k付近の浸水状況（三重県伊勢市）



宮川右岸7.4k付近の浸水状況（三重県伊勢市）

風水害概要

台風が大型で、さらに台風の動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。三重県多気郡大台町の宮川雨量観測所では、降り始めからの累加雨量は883mmを観測した。

この台風により国道42号線が約44時間にわたって通行止めとなった（中部地方整備局調べ）。そのほか中部地方で死者・行方不明者3名、負傷者46名、住家全壊81棟、半壊1077棟、一部破損75棟、床上浸水704棟、床下浸水857棟（消防庁調べ平成24年3月19日時点）となった。

平成23年9月2日～5日 / 台風12号

近畿
地方

和歌山、三重県内で10000戸を超える家屋浸水
被害が発生



新宮川水系熊野川の越水状況（三重県南牟婁郡紀宝町）



新宮川水系熊野川の浸水状況
（三重県南牟婁郡紀宝町）
紀宝町提供

風水害概要

台風が大型で、さらに動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。紀伊半島の一部では2,000mmを超える大雨となった。

この台風により和歌山～三重県間を繋ぐ国道42号(熊野大橋)が72時間にわたり通行止めとなった(近畿地方整備局調べ)。そのほか近畿地方(三重県含む)の一般被害は、死者72名、行方不明者16名、負傷者65名、住家全壊・半壊合わせて3390棟、床上浸水4398棟、床下浸水9336棟(消防庁調べ平成24年3月19日時点)となった。



新宮川水系熊野川の堤防越水状況
(和歌山県新宮市)
(新宮市提供)



新宮川水系相野谷川の越水状況
(三重県南牟婁郡紀宝町)
(紀宝町提供)



新宮川水系相野谷川の浸水状況
(三重県南牟婁郡紀宝町)
(紀宝町提供)



那智川水系那智川の浸水状況 (和歌山県那智勝浦町)

平成23年9月2日～4日 / 台風12号

中国 地方

中国地方で10,000戸を超える
家屋浸水被害が発生



旭川沿川の浸水状況（岡山市北区宿）



高梁川沿川の浸水状況（岡山県総社市清音黒田）



佐陀川沿川の被害状況（鳥取県米子市河岡地先）



高梁川沿川の被害状況（岡山県新見市金谷）



東郷池沿川（鳥取県東伯郡湯梨浜町）



国府川沿川の浸水状況（鳥取県倉吉市西福守町）

風水害概要

台風が大型で、さらに動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。鳥取県大山町大山で降り始めからの累加雨量は938.5ミリを観測した。

この台風の影響で中国電力管内で約28,000戸が停電（経済産業省調べ平成23年10月24日08:00時点）。その他中国地方では、死者1名、住宅全壊3棟、半壊133棟、一部損壊43棟、床上浸水1039棟、床下浸水9057棟となった。（消防庁調べ平成24年3月19日時点）16

四国 地方

平成23年9月16日～21日 / 台風15号

四国地方で1200戸を超える家屋浸水被害が発生



吉野川水系吉野川の浸水状況（徳島県美馬市脇町）



吉野川水系吉野川の浸水状況（徳島県）

風水害概要

台風が大型で、さらに動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。高知県高岡郡津野町の船戸雨量観測所では、9月16日14時から15時の1時間に45mmを記録し、9月21日5時までの降り始めからの累加雨量は979mmを記録した。

この台風の影響で、徳島県内の国道11号が14時間にわたって通行止めとなった（四国地方整備局調べ）。そのほか四国地方の一般被害は、死者1名、全壊1戸、一部損壊13戸、床上浸水191戸、床下浸水1030戸となった。（消防庁調べ平成23年12月15日時点） 17

九州 地方

平成23年9月25日～26日 / 奄美豪雨

時間雨量100ミリを超える猛烈な雨
河川の氾濫等により奄美大島で浸水被害が発生



大美川水系大美川沿川の浸水状況（大島郡龍郷町戸口）



大美川水系大美川沿川の浸水状況（大島郡龍郷町戸口）



大美川水系大美川の破堤状況（大島郡龍郷町大勝）

風水害概要

奄美地方北部では、平成23年9月25日から27日の朝方に、高気圧周辺から湿った空気の流入により大気の状態が不安定となり、雨雲が急激に発達した。鹿児島県大島郡の大勝観測所で1時間雨量100mm、累加雨量527mmを観測した。

この雨により一般国道58号が84時間にわたって通行止めとなった。そのほか鹿児島県奄美大島の被害は、死者1名、住家全壊4棟、半壊120棟、一部破損1棟、床上浸水145棟、床下浸水445棟となった。（鹿児島県調べ：平成24年3月31日時点）

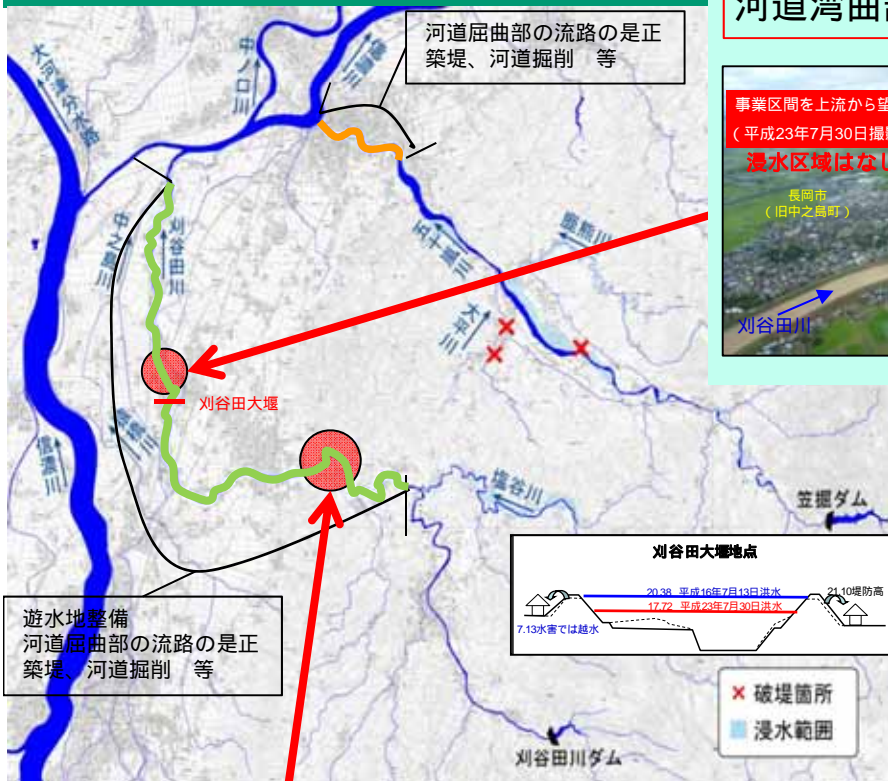
治水事業の効果

新潟・福島豪雨（信濃川水系五十嵐川、刈谷田川）

平成16年7月洪水後に再度災害防止を目的に、直接被害のあった信濃川水系五十嵐川・刈谷田川におい、緊急的な河川改修を実施。

新潟・福島豪雨において、平成16年7月洪水（累加647mm）の1.6倍の雨量（累加雨量1006mm）を記録したにも関わらず浸水被害は激減した。

「新潟・福島豪雨」被災状況

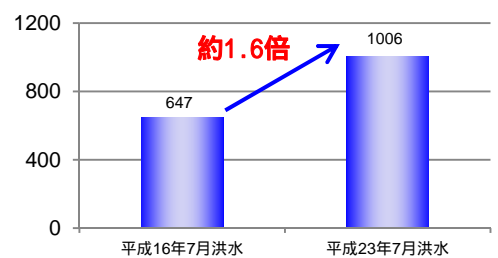


河道湾曲部の流路の是正



破堤箇所の屈曲部は水路をなだらか（ショートカット）にして洪水を安全に流下させることで、浸水被害を防止。

累計雨量(mm) 笠堀雨量観測所



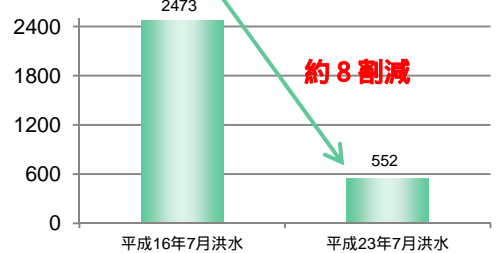
刈谷田川遊水地

平成16年7月洪水後に刈谷田川に6つの遊水地を緊急的に整備。

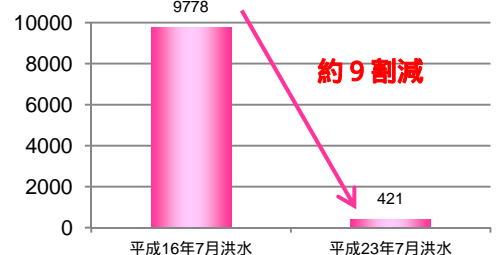
遊水池と上流の刈谷田川ダムが洪水調節機能を発揮し、下流の水位低下に大きく貢献し、浸水被害を防止。



浸水面積(ha)



浸水家屋(戸)



出典

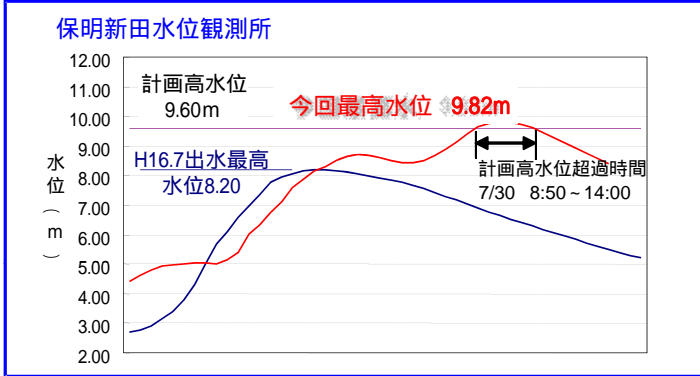
H16.7新潟・福島豪雨：「7.13新潟豪雨災害水害記録誌（H18.3新潟県土木部河川管理課）」
H23.7新潟・福島豪雨：新潟県調べ

治水事業の効果

新潟・福島豪雨（信濃川水系信濃川）

平成16年7月洪水を受けての、五十嵐川・刈谷田川の河川改修により、流量増となる下流側の信濃川本川における受皿確保として、緊急的な河川改修を実施。

新潟・福島豪雨において、信濃川（下流）の水位観測所では軒並み既往最高水位を観測したが、堤防決壊等の甚大な被害は生じなかった。



保明新田水位観測所付近の横断面図

信濃川（下流）の水位観測所では、軒並み既往最大水位を観測したが、H16.7洪水を踏まえ、上流の五十嵐川・刈谷田川の改修も考慮して、堤防の嵩上げを実施したことにより、堤防決壊等の甚大な被害は生じなかった。

今回出水の最高水位は旧堤防高を超過していた。



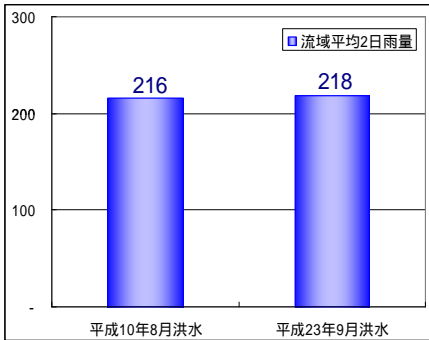
■ : H16.7洪水以降に緊急的に整備した堤防

治水事業の効果

台風15号（阿武隈川）

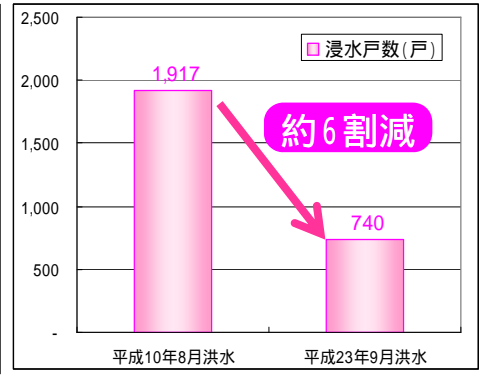
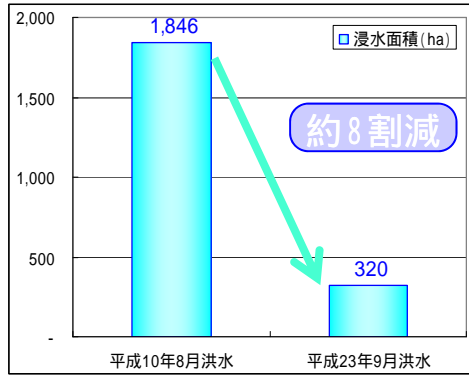
平成10年8月洪水を契機として無堤地区が全体の30%を占めるなど、著しく低かった河川整備率を向上させ、再度災害を防止するために大規模改修を実施。台風15号では改修を実施した区間においては浸水被害は大幅に減少。

福島地点上流の流域平均2日雨量



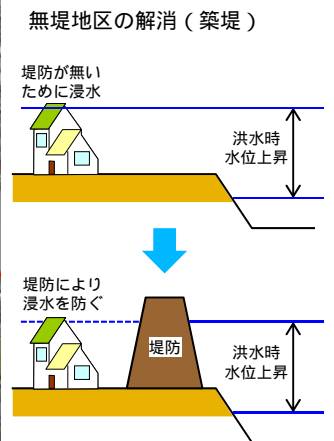
流域平均の降雨量は同規模

阿武隈川上流における治水対策の効果

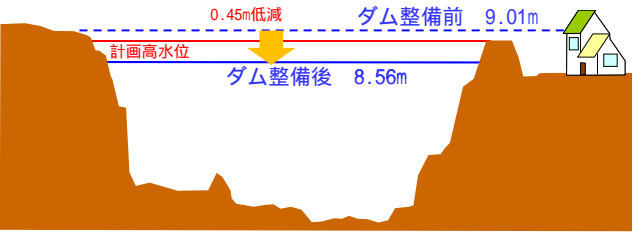


数値等は速報値です。今後の精査等により変更をする場合があります。

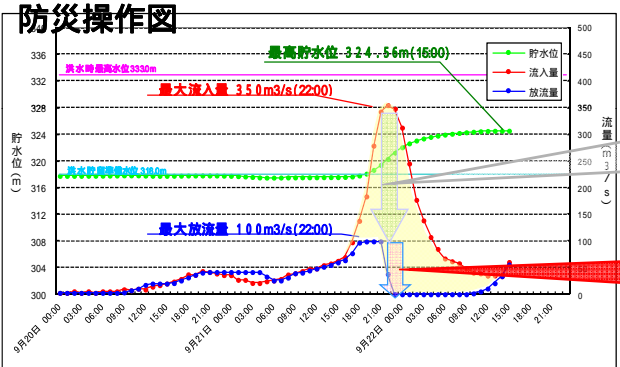
< 本宮市本宮右岸地区 >



三春ダムにおいては、降雨予測及びダムの空容量を勘案し、下流の水位の状況を踏まえ、洪水の途中からダムへの流入を全て貯留する全量カットによる洪水調節を実施し、ダム下流全川にわたり水位を低減。



本宮水位観測所
ダム整備前 9.01m
ダム整備後 8.56m
約0.45mの水位低減



ダム操作規則に基づき
250m³/sの洪水調節
下流の一層の水位低下の為、更に100m³/sの洪水調節（全量カット）

治水事業の効果

台風15号（庄内川）

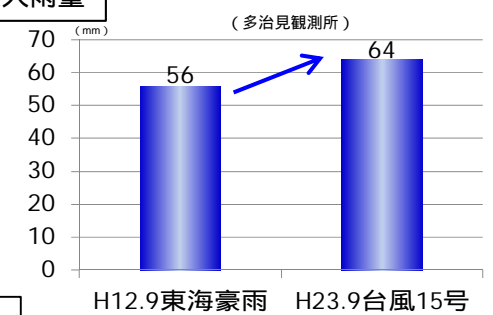
平成12年9月の東海豪雨を契機に、平成12年度から平成16年度にかけて河川激甚災害対策特別緊急事業を実施。
 今回の台風15号では、場所によっては平成12年東海豪雨時よりも多くの雨量を記録したが浸水被害は激減した。

「平成23年9月 台風15号 被災状況」

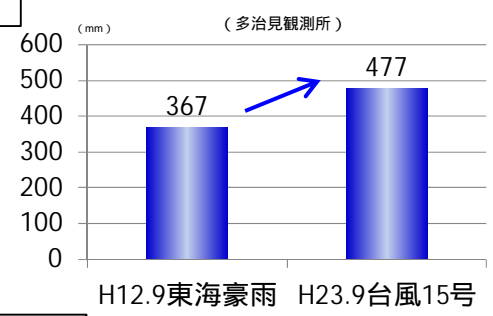
勝川橋（23.4k付近） 東名庄内川橋（32.2k付近）



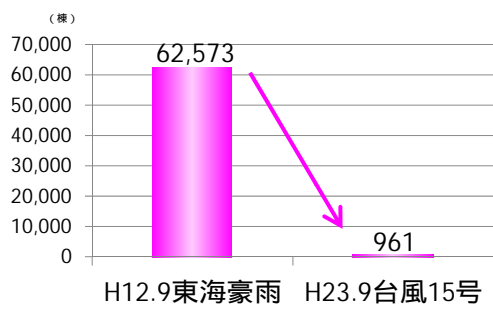
時間最大雨量



総雨量



浸水被害



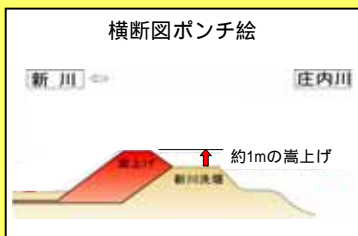
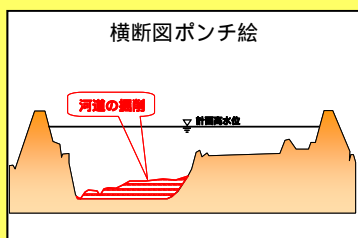
〔平成16年度完成〕

河川激甚災害対策特別緊急事業



庄内川

- ・ 流下能力確保のための河道掘削
- ・ 築堤
- ・ 堤防の強化



新川

- ・ 流下能力確保のための河道掘削
- ・ 遊水地の整備
- ・ 新川洗堰の嵩上げ
- ・ 堤防の強化



治水事業の効果

平成23年7月出水（川内川）

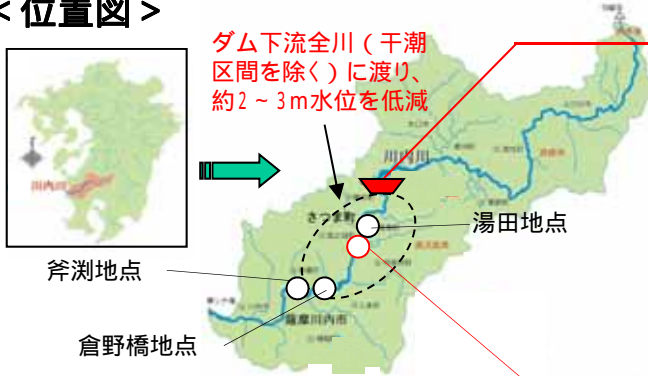
川内川水系鶴田ダム上流において総雨量264mmの降雨となり、既往第2位の最大流入量2952m³/sを記録。

鶴田ダムの操作により、最大約3870万m³（ヤフードーム22杯分）を貯留し、最大流入時には下流へ流す水量を約4割に低減。

ダム下流の宮之城(みやのじょう)地点では約2.5mの水位を低減させる効果。

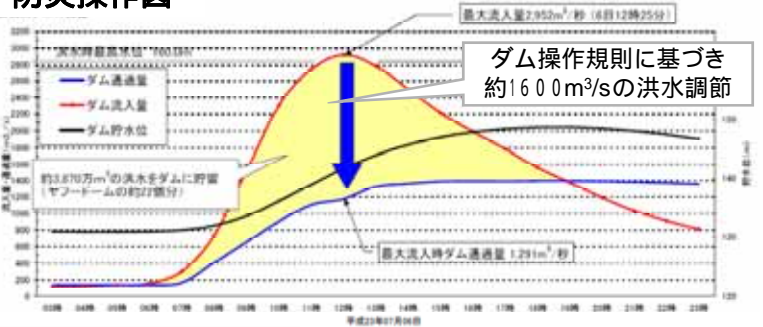
下流水位を低減させたことで、避難が必要な時間を短縮。（はん濫危険水位を超過した時間）

<位置図>



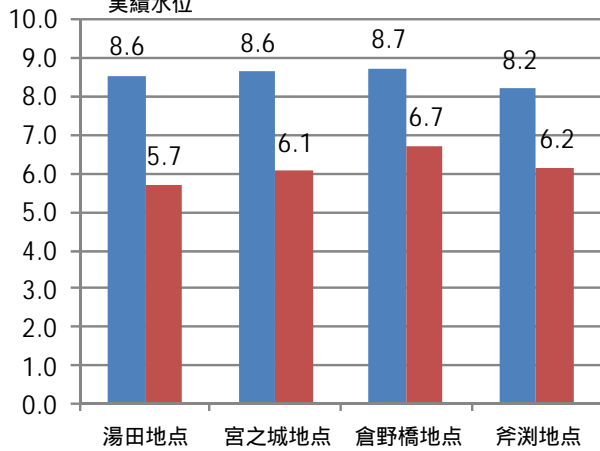
鶴田ダム

防災操作図



ダム下流の水位低減効果

ダムがなかった場合の最高水位(推定値)
実績水位



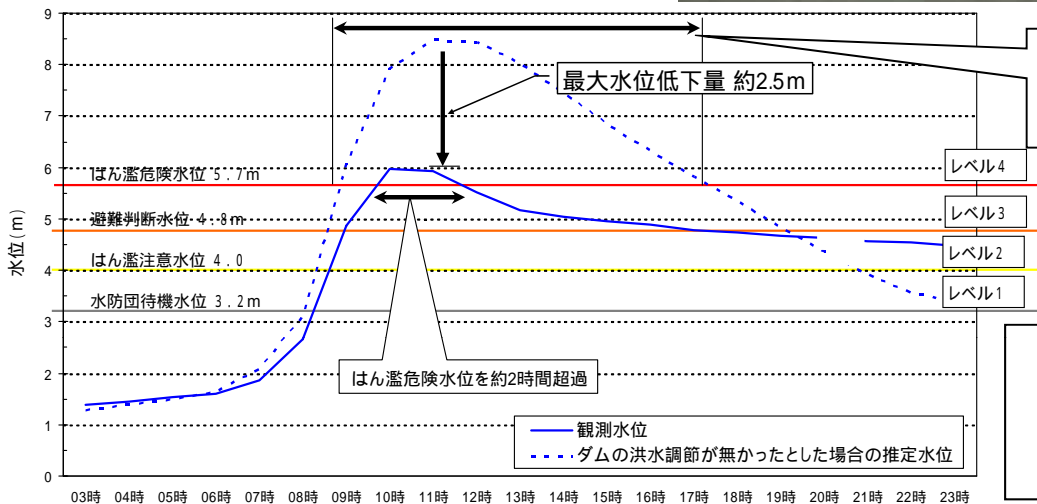
宮之城地点(さつま町)



7月6日出水時



宮之城地点における水位の状況



ダムによる洪水調節がなかったとした場合、はん濫危険水位を約9時間超過

7月6日避難判断の状況
 ・7/6 8:30 避難準備
 鶴田・薩摩地域、柘野地区等
 世帯4125 人数9971
 ・7/6 14:30 避難準備解除
 全地域

下流水位を低下させたことで避難が必要な時間を短縮（はん濫危険水位を超過した時間）

平成23年7月新潟・福島豪雨

延べ262人・日活動
2県、18市町村へ支援

災害対策連絡担当官(リエゾン)の派遣による 被災自治体のニーズに応じた支援

7月28日より、
災害対応支援を実施



発災直後より、被災自治体へ職員(災害対策連絡担当官:リエゾン)を派遣し、自治体への技術的な助言や被災自治体のニーズに応じた救援物資の支援等を継続して実施

自治体職員への助言



Ku-SAT(衛星画像伝送装置)による 河川被災箇所等の映像監視(5箇所)

増水する河川の様態等を撮影した映像をKu-SATを用いて衛星回線を通じて国土交通省に伝送し、首相官邸、内閣府にも配信し、映像による現地状況を把握



新潟県長岡市川口



新潟県三条市江口

公共土木施設の被害状況調査

新潟県、福島県からの要請を受けて、被災状況の調査、復旧方針等の技術的な支援、助言を実施



国道252号 二本木橋(福島県)被災状況調査

国土交通省の保有する災害対策用車両による 災害対応支援を実施

新潟県からの要請を受け、三条市、加茂市、南魚沼市等において、関東・北陸・中部地整より排水ポンプ車、照明車等(のべ270台・日)を出動させ、昼夜を問わず排水作業を実施。(堤防決壊は、信濃川水系五十嵐川他7河川10箇所)



浦佐駅付近湛水状況



新潟県田上町川坂田排水状況



新潟県加茂市下条下興野排水状況



新潟県南魚沼市浦佐駅付近排水状況



信濃川支川田川(新潟県)被災状況調査



現地調査後の打ち合わせ状況

平成23年9月台風12号災害

延べ5,185人・日活動
3県、19市町村へ支援
(台風15号災害について
継続支援)

9月3日より、
災害対応支援を実施



災害対策用ヘリコプターによる広域上空被害調査

被災直後より、国土交通省保有の災害対策用ヘリコプター8機と民間ヘリコプター1機を展開し、のべ175機・日により被害状況調査等を実施。



被災した地域が急峻な山あいであり、地上ルート確保が困難なため、大規模な河道閉塞箇所の調査や、隊員や物資の搬送に活躍。

公共土木施設の 被害状況調査支援



自治体職員への助言



通信回線が寸断された自治体に、衛星通信車・Ku-SATを出勤させ、電話回線の確保及び被災状況の映像配信を実施。また、排水ポンプ車、照明車等の災害対策車両を全国より被災地に集結させ、災害対応を実施。
(のべ8,683台・日)

河道閉塞への対応 (緊急調査対象 5箇所)

赤谷地区(河道閉塞)緊急対策工事



改正土砂災害防止法に基づく緊急調査を実施し、詳細かつリアルタイムの雨量情報を迅速に伝えるXバンドMPLレーダーを活用して降雨状況を監視するなど、関係自治体の警戒避難体制を支援し、的確な避難の確保に寄与。また、国土交通省の技術力を活用し、緊急的な排水路工事も実施中。

道路啓開による孤立集落の解消

最大21集落の孤立が生じ、地域の生命線となっている道路の啓開により、孤立集落の解消を実施。



被災自治体のニーズに応じた支援

十津川村では、道路が寸断され村ごと孤立状態になり、役場の機能支援のため、村の要請当日(6日)からTEC-FORCE隊員(30名)がヘリで現地入りし、水(約2,500L)などの支援物資の搬入等を継続実施。



十津川村長から近畿地方整備局長への感謝状

タイの洪水【国際緊急援助隊（排水ポンプ車チーム）の取り組み】

6月頃からインドシナ半島では長期的な豪雨が継続（6月から9月までの降水量は一部で平年の約1.8倍）し、タイではチャオプラヤ川が氾濫し2ヶ月以上にわたる浸水が発生。死者800名を超える人的被害をもたらした。

7工業団地（全804社のうち日系企業約447社）でも浸水被害が発生。サプライチェーンの寸断により、日本国内の生産にも大きな影響を及ぼした。



バンコク中心部を守る最後の砦であるキングスダイク(国王の堤防)から北側は一面池のような状況(10月21日)



工業団地の周りを囲む輪中堤を超えて工場建屋は完全に水没(10月21日)
(ロジャナ工業団地:日本企業が最も多く進出している工業団地)

大規模な水害への対応経験がある国土交通省地方整備局職員を、高性能で機動力のある排水ポンプ車10台とともに、国際緊急援助隊として派遣

国土交通省地方整備局、外務省、JICA、民間企業による官民連携の排水チームを派遣。計51名(のべ880人・日)が排水活動に従事。11月19日より、タイ国工業省等との緊密な協力のもと排水作業を開始し、12月20日に排水活動を終了(計32日間)。ロジャナ工業団地、アジア工科大学院、プライバーン町住宅地等で約810万m³(東京ドーム約7杯分、25mプール約23,000杯分)を排水。



ポンプ排水の状況



ロジャナ工業団地
排水前(11/23)



ロジャナ工業団地
排水後(11/26)